

氏名	佐藤 康晴
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 3815 号
学位授与の日付	平成21年3月25日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目 Patients with localized primary non-tonsillar oral diffuse large B-cell lymphoma exhibit favorable prognosis despite a non-germinal center B-cell-like phenotype  
(扁桃を除く限局期口腔原発びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫はnon-germinal center B-cell-like phenotypeにもかかわらず予後良好である)

論文審査委員 教授 谷本 光音 教授 西崎 和則 准教授 松浦 栄次

#### 学位論文内容の要旨

扁桃を除く限局期口腔原発びまん性大細胞型B細胞リンパ腫21症例を対象として、免疫組織化学的および臨床病理学的特徴について検索した。その結果、口腔原発びまん性大細胞型B細胞リンパ腫は21例中17例(81%)がnon-germinal center B-cell-like phenotypeを示しており、過去に報告された扁桃原発びまん性大細胞型B細胞リンパ腫とは有意に表現形質が異なっていた( $P < 0.05$ )。また、non-germinal center B-cell-like phenotypeを示すびまん性大細胞型B細胞リンパ腫は限局期節外病変であっても予後不良であると報告されているが、扁桃を除く限局期口腔原発びまん性大細胞型B細胞リンパ腫では予後良好な結果を示した。以上の結果より、扁桃を除く限局期口腔原発びまん性大細胞型B細胞リンパ腫は予後に表現形質が関係しない可能性が示唆された。

#### 論文審査結果の要旨

本研究は扁桃を除く限局性口腔原発びまん性大細胞型B細胞リンパ腫21例を対象に、免疫組織化学的ならびに臨床病理学的特徴について解析した結果、17例(81%)がnon-GCBタイプを示し、これまでの報告とは異なりその予後は良好であることを見出している。

以上の結果は、リンパ腫の亜型分類と予後の関連において重要な知見であり、また予後と細胞表現形質の関連性に関する貴重な業績である。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。